

キリストがすべてです

冬(2021 年 12 月、2022 年 1 月、2 月)

まず、2021 年の夏と秋の追加のニュースからお伝えします。7 月 27 日、イタリアから来た 3 人の女性“宣教師”(日本に住み、奉仕している)がレスキューミッションに来て、多くの印刷物、特に『Vanity of Vanities(祈禱書)』を持ち帰り、茨城県の刑務所に送るために持って行きました。彼女たちは刑務所内に入って直接奉仕することは許されていませんが、文書を送る許可は得られたとのことでした。これは非常に感謝すべきことです。神が日本中の刑務所にこの文書を広め、さらなる要求が来るようにお祈りください。囚人たちがその祈りを真剣に祈るよう、神が心を動かしてくださるよう祈ってください。刑務所への道が開かれるようにと祈ってくださった方々、ありがとうございます。この福音文書が刑務所に入っていくことは、皆さんの祈りに対する明確な答えだと信じています。

私は日本で定期的に街頭で説教していますが、人々が立ち止まって話しかけたり、聞いてくれることはほとんどありません。だからこそ、そうした稀な機会がある時は非常にうれしく思います。8 月 7 日土曜の夜、レスキューミッションを閉めた後、いつも補給

をするスーパーの駐車場の端で賛美歌を歌っていました。20 歳くらいの不機嫌そうな青年が通り過ぎる時に立ち止まり、「何をしているんですか？」と尋ねてきました(無礼でもなく、友好的でもない中立的な態度でした)。「あなたの創造主なる神に賛美を捧げています」と答えると、彼は私のそばに立ち止まって聞いてくれました。私はすぐに名刺を渡し、ウェブサイトの祈りを見てほしいと伝えました。私は彼に「あなたは永遠に存在する存在です。地上で最も重要なことは、キリストを信じて地獄を避け、天国に入ることです」と伝えました。彼は黙って聞いていました。5 分ほどでスーパーから戻ってきて、再び私のそばに立ち止まり(神に感謝)、さらに歌を聞いてくれました。彼のために選んだ次の歌を歌い、間に少し話しかけました。彼は再び無言で去って行きました。その最初の質問以外、彼は一言も発しなかったと思います。「主よ、彼を救ってください。私たちは一致して願います！」

2014 年夏以来、神は軽井沢で「夏のレスキューミッション」のための店舗スペースを借りることを可能にしてくださいました。最初に開店した数日後、東京から来た母親と 3 人の子供たち(上の女の子は 5 歳、赤ちゃんの男の子も)がお店に来ました。彼らは毎年ここ軽井沢で夏を過ごしています。母親は静か

で控えめですが、子供たちはその逆です。特に 5 歳の女の子は偉そうな態度で話しかけてきました。毎年忠実に来ては、激安の中古品を買っていきます。子供たちはとても失礼な言葉で話しかけ、店内のあらゆる物を触りまわりますが、母親はほとんど注意しません。私は段々と厳しく接するようになり、無礼さを叱るようになりました。キリストと救いについて語り、カセットテープや CD から福音が彼らの耳に入るようにしています。

この数年、彼らの叔母とその 3 人の礼儀正しい子供たち(無礼な子供たちのいとこ)も一緒に来るようになりました。その中の一人、現在 14 歳くらいの男の子は、非常に礼儀正しく、福音文書を丁寧に読んで、毎回 1 冊ずつ持っています。彼とその家族全体の救いのために祈ってください。

8 月 22 日(日)、高崎市の教会で 5 人に説教しました(そのうち 3 人は牧師の家族)。牧師と会衆の霊的な覚醒と、日曜日の出席者の増加のためにお祈りください。

2021 年の夏、日本ではコロナが増加し、全国的に平均を超える豪雨が多発しました。死傷者、家の

損壊、作物の不作などが相次ぎました。周囲の日本人は死を恐れて暗くなっていますが、それでも創造主なる神に対しては依然として頑なです。私はこれまで以上に、街頭説教を直接的かつ明確にするよう努めています。「救い主のもとに来て、永遠の救いと祝福を得なさい。キリストを拒否すれば、地獄の火で永遠に苦しむのです」。彼らの救いのために祈ってください。

8月24日、仏教の僧侶がレスキューミッションに入ってきました。とても友好的に接してくれ、「私は仏教の僧侶です」と最初に自己紹介してくれました。ほとんどの僧侶は、ドアの上の大きな祈りの看板を見ただけで、激しく避けて通ります。私は親切に接し、彼はキリスト教文書や日本語のゴスペルソングのテープを手に取りました。「主イエスよ、この方を悪魔の宗教から救い出してください！」

秋になると、静かな日本人の青年(20代中盤と思われる)がレスキューミッションに2度以上来店しました。キリスト教の文書やオーディオ、聖書をじっくり見て、1~2点持ち帰ります。3度目の訪問時には、私はイエス・キリストによる永遠の救いの必要性和そのシンプルさ、そして世界の終わりが近いことについて

て話しました。彼はよく聞いていました。彼の住まいを尋ね、私が最も近くで説教している教会に来るように招きました。彼の名前は分かりません。彼が創造主に従い、御心を行うようにお祈りください。

レスキューミッションに勇気を出して入ってくる通行人のほとんどは、私が販売している品物を買う目的で来ます。店の外には「不要品をお持ちください」と看板を掲げています。この地域の裕福な日本人がたくさんの物を持ち込んでくれます。主に衣類、陶磁器(各種の皿類)、家庭用電化製品、文房具、玩具や子供用品などです。私はそれらを新品価格の 10% 未満で販売しています。

私の友人たちよ、キリストを憎む人々でも、あまりの安さに我慢できず、歯ざしりしながらも入店してきます。友人同士で通りかかったとき、通りに立ったままお金を友人に渡し、買ってきてもらうように頼み、その比較的「キリスト嫌い度」が低い友人が店内に入り、素早く買い物をしてすぐに出ていきます。そして外で待っている本人に品物を渡すのです。なんと罪深い反逆者たちでしょう。

店内に入ってきた人たちの多くは、私の話をあま

り聞きたがりません。ですから、私は短く要点を突いた話し方を心がけています。ある日、母親が婦人服を見に来店しました。その娘(15 歳くらい)が暇を持て余して、キリスト教文書の棚に行き、1 冊のトラクトを手に取り、読み始めました。感謝！

私は彼女から2メートルほどの距離にいて、近づかないようにしました。私の存在が不快に感じられることが多いからです。そこで、静かに、押し付けがましくならないように「ご自由にお持ち帰りください」と声をかけました。すると彼女はそのトラクトをすぐに置いてしまい、それ以降手を伸ばしませんでした。私の言葉は、多くの場合、望んだような好反応ではなく、逆効果になることがほとんどです。悪魔が彼らの魂を反抗的な状態にしているのです。

「主よ、これら高慢な魂を救ってください。私は心から願います。」永遠の救いのために祈り、取りなしてくださっている皆さん、本当にありがとうございます。

神の大きな恵みにより、私は11月3日まで軽井沢のレスキューミッションを維持し、その後、予定通り冬のために閉店しました。その間、私はさまざまな

人々にイエス・キリストによる救いを伝えました。聖霊が彼らの心を動かしてくださるように。主が多くの人々を救ってくださるように。コロナ禍などの影響で財布の紐が締まる中、ますます多くの貧しい人々が中古の激安食器や衣類を買いに来ています。彼らがイエス・キリストに信頼を置くようになりますように！

あなたもよくご存知のとおり、罪と金銭を愛する人々は、最も美しい自然の場所さえも罪に満ちた「娯楽の場」へと変えてしまいます。私は 1975 年 3 月に軽井沢に来て、宣教師のための語学学校で日本語を学びました。鈴木兄(当時高齢)が私の先生の一人でした。彼は私が来る数年前に町役場に働きかけ、この町にバー、パチンコ、ラブホテルが進出しないようにさせました。しかし、2000 年頃に彼が 90 代半ばで亡くなる前から、町役場と金銭を愛する商人たちはその規制を無視し始め、バーの数は増え続け、今では町は酒に溺れています。

観光地として最も人通りの多い中心部では、道端の小さな屋台バーが歩行者に直接酒を提供しています。人々は 2 歩も道を外れることなく「ショット」を注文し、飲んで、酔いながら歩いて行きます。配達用バンを改造した移動式バーも存在します。所有者は

移動式の酒屋を運転し、売れそうな場所に停車します。「主なる神よ、これを止めてください！」

この移動バーのオーナーと、反抗的な罪人で満ちたこの地球は、やがて死によって突然衝撃を受けるでしょう。そして気づけば地獄の炎に包まれ、「**私はこの炎の中で苦しんでいるから、水を一滴でも…**」とルカ 16 章の金持ちのように願うようになります。しかし、その一滴の水さえ、永遠に与えられません。この真実を知っている私たちには、それを人々に伝える重大な責任があります。

私は今年のレスキューミッションを閉じた 11 月 4 日以降、再び群馬県の美しい田園風景の中で多くの屋外伝道を行いました。家々をまわって福音文書を配り、人々の耳に届く範囲で神への賛美を歌いました。「**へりくだった者は聞いて喜ぶ**」(詩篇 34:2)。結果として、私の周囲にいる多くの人々の中で、へりくだった魂は非常に少ないことに驚きませんでした。キリストを高く掲げるために私を支えてくださるあなたに、神の祝福がありますように。

10 月 10 日(日)、友人で宣教師の牧師ダンが、長野県佐久市の教会で説教させてくれました。軽井

沢のミッションから 20 マイルほど離れた場所です。ダンとその家族は 1984 年に初めて来日しました。困難で実りの少ない宣教地での彼の忠実な働きは、私にとって祝福です。私は彼とその家族に祝福と励ましを与えようと努力しています。彼は 20 年ほど前に古い家を借り、それを改装して、昔ながらの小さくて居心地の良い教会にしました。最盛期には、日曜午前の礼拝に 30 人以上が出席していましたが、サタンが新しい来訪者の姿をして入り込み、教会を引き裂いてしまいました。2021 年 10 月に私が説教したこの日には、日本人の信徒 3 人、ダン牧師夫妻と娘さんの計 6 人が集まりました(彼らには成人した子どもが 5 人おり、3 人がアメリカ、2 人が日本にいます)。私は心を込めて説教し、主は私たち全員に祝福を与えてくださいました。ダン兄弟とその宣教師一家への祝福をお祈りください。

ここまでが 2021 年の夏と秋の報告です。次は 2021～2022 年の冬の報告に入ります。

2021 年 12 月 4 日(土)、私は群馬県の自宅から三重県的美濃ミッションへ電車で移動し、翌日(日曜日)は 10:30、13:30、19:00 の 3 回、近隣の教会で説教しました。なんと栄光に満ちた日だったことでしょう！その翌週の水曜夜には、宿泊していた富田浜バイブル教会の午後 7 時半の集会で聖書の教えを行い、翌木曜日の夜には大垣バイブル教会で再び聖書を教えました。

12 月 11 日(土)午後には、富田浜教会主催の子供向けクリスマス会に出席しました。教会に普段通っていない近所の子供たちが大勢参加し、救われていない、または教会に属していないお母さんたちも数名、子供を連れて参加しました。クリスマスの季節は、普段は教会に来ない人々に救い主を語る特別な機会が与えられます。

そして 12 月 12 日(日)には、富田浜教会で午前 10 時半と午後 7 時の 2 回説教し、12 月 14 日(火)には日本の南部、鹿児島県指宿市の私の居住地へ向けて出発しました。この 8 日間の滞在中に、私は人口密集地域を歩き回り、約 3000 枚のポストカードサイズの祈りカードを各家庭の郵便受けに投函しま

した。その祈りを心から祈って救われるよう、どうかそのご家庭のために祈ってください。

1 年前、ニュースでお伝えした中国人女性のことを覚えておられるでしょうか？彼女は岐阜駅前で私が歌っていた時に立ち止まって話しかけてきた方です。私の招きに応じて、牧師ジェフの教会へ私の説教を聞きに来てくれました。彼女は自分をクリスチャンだと告白しています。その後も私がその地域を離れた後、2 度ほどジェフ牧師の教会に出席したそうです。今年の 12 月に再びその地域を訪れた際、彼女は駅の近くで私と会うことに同意してくれました。私たちは話し合い、彼女とその家族のために私は祈りました。彼女はとても健康状態が悪いです。主が彼女を癒し、完全な者としてくださるよう、どうかお祈りください。

12 月 14 日に鹿児島県指宿市の自宅に到着してから、2 月 26 日までの間、私は自分の力の限りに近い形で、日々イエス・キリストの救いの福音を伝えました。幾人かの心が真理に向かって和らいでいくのを目にし、私は大いに喜びました。あなたの祈りが、聖霊の力と確信を、福音を聞く者たちの上に注いでいることを私は知っています。祈ってくださって本当

にありがとうございます。どうか引き続き、祈りを続けてください。

ここ指宿市では、誰かがキリストに関心を示すと、すぐさま周囲からの強い圧力がのしかかってきます。友人、学校のクラスメート、教師、職場の同僚、近所の人々など、関わりのあるあらゆる人たちが、その人がキリストを信じないように働きかけてくるのです。祈りの戦士の皆さん、どうか聖霊が魂をキリストに引き寄せ、あらゆる妨害や悪魔に立ち向かって、救い主イエス・キリストを信じる勇気を彼らに与えてくださるよう祈ってください。

私のために心を配り、祈り、取りなし、支援してくださっている皆さんに心から感謝します。どうか主がそのすべてに豊かに報いてくださいますように。

主イエス・キリスト の しもべ、 サム・ヤ・ビー